



I 第 33 週の発生動向 (2025/8/11~2025/8/17)

1. 水痘については、三戸+八戸市保健所管内で**注意報**が継続しています。
2. 百日咳については、下北保健所管内を除く 5 保健所管内で患者が報告されています。手洗い等の基本的な感染対策の徹底をお願いします。
3. 新型コロナウイルス感染症については、報告数の増加が継続していますので、基本的な感染対策の徹底をお願いします。

※現在、国及び国立健康危機管理研究機構が警報・注意報の基準値について確認を進めているところですが、県の週報に記載する発生動向では、当面の間、従前の基準値を用いて注意喚起を行います。

<感染症の窓>

今週のテーマは「腸管出血性大腸菌感染症」です。

最終ページに掲載しています。

II 第 33 週五類定点把握対象疾患

※記載データは、速報値です。

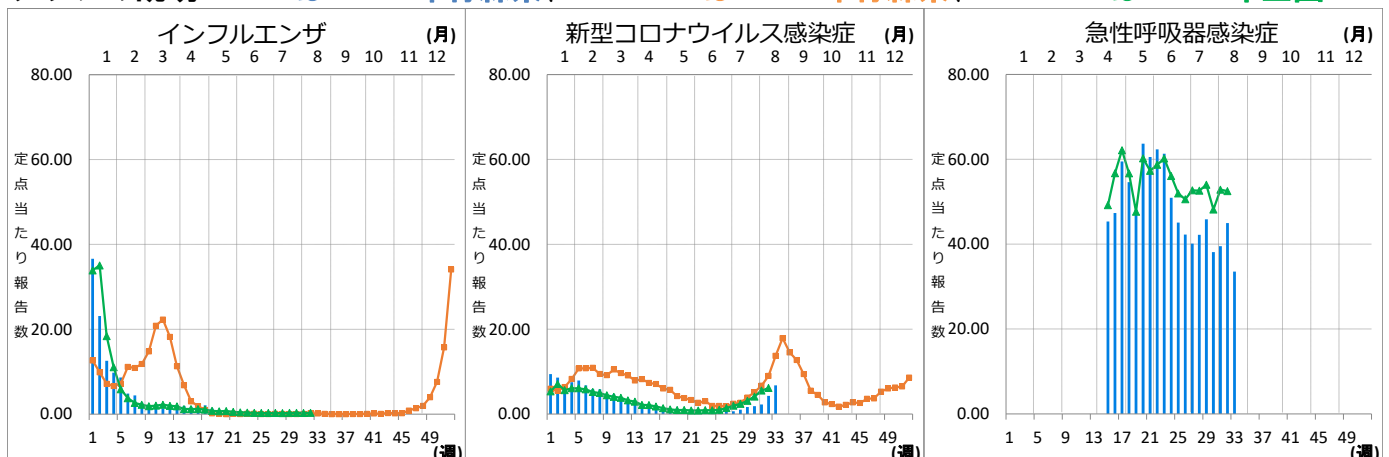
青森県内の保健所管内、定点(医療機関)数、**警報・注意報**については青森県の感染症発生状況 TOP ページをご覧ください。

は警報、は注意報。「空欄」：患者報告無し。

		東青 (東津軽+ 青森市保健所)		中南 (中南保健所)		三八 (三戸+ 八戸市保健所)		西北 (西北保健所)		上北 (上北保健所)		下北 (下北保健所)		青森県計		前週 からの 増減
		数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	
急性 呼吸器 感染症	インフルエンザ	7	0.64			4	0.44	3	0.50	5	0.56	1	0.17	20	0.40	6
	新型コロナウイルス感染症	50	4.55	45	5.00	91	10.11	63	10.50	63	7.00	26	4.33	338	6.76	119
	急性呼吸器感染症	366	33.27	278	30.89	259	28.78	245	40.83	311	34.56	218	36.33	1677	33.54	-617
小児科	RSウイルス感染症							2	0.40	1	0.17			3	0.09	2
	咽頭結膜熱	1	0.17	1	0.20	3	0.43							5	0.15	-3
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3	0.50	4	0.80	5	0.71	3	0.60	2	0.33	2	0.50	19	0.58	-3
	感染性胃腸炎	13	2.17			11	1.57	11	2.20			2	0.50	37	1.12	-63
	水痘					7	1.00					1	0.25	8	0.24	-2
	手足口病	3	0.50	2	0.40			1	0.20					6	0.18	-15
	伝染性紅斑	1	0.17	3	0.60	2	0.29	1	0.20					7	0.21	-4
	突発性発しん	1	0.17			1	0.14	3	0.60	3	0.50			8	0.24	-4
	ヘルパンギーナ			7	1.40							2	0.50	9	0.27	1
	流行性耳下腺炎							1	0.20			1	0.25	2	0.06	1
眼科	急性出血性結膜炎															0
	流行性角結膜炎															-1
基幹	感染性胃腸炎(ロタウイルス)															0
	クラミジア肺炎															0
	細菌性髄膜炎															0
	マイコプラズマ肺炎	1	1.00	3	3.00			1	1.00			3	3.00	8	1.33	-5
	無菌性髄膜炎					1	1.00							1	0.17	1

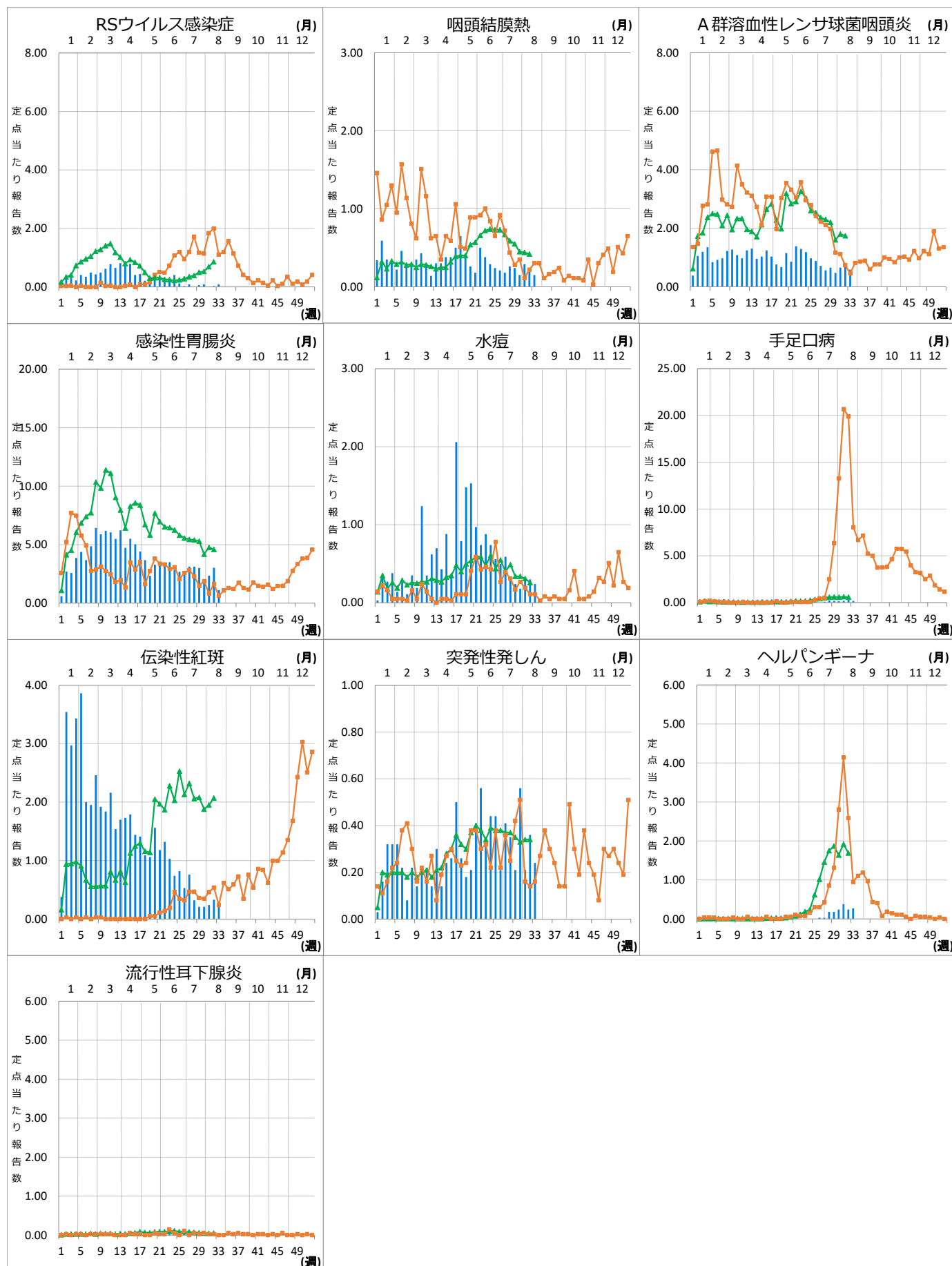
III 定点把握対象疾患週別推移(急性呼吸器感染症定点)(2025 年第 33 週、ただし全国は前週)

グラフの説明 〓は 2025 年青森県、■は 2024 年青森県、▲は 2025 年全国



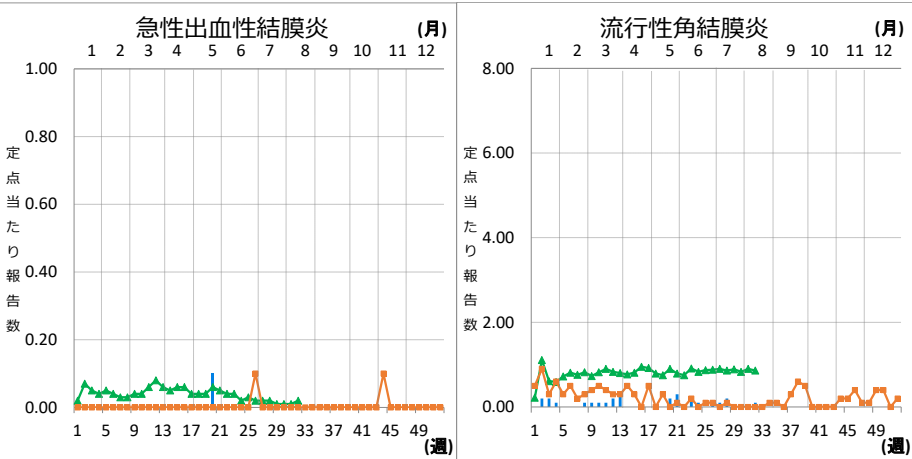
Ⅳ 定点把握対象疾患週別推移（小児科定点）（2025 年第 33 週、ただし全国は前週）

グラフの説明   は 2025 年青森県、 は 2024 年青森県、 は 2025 年全国



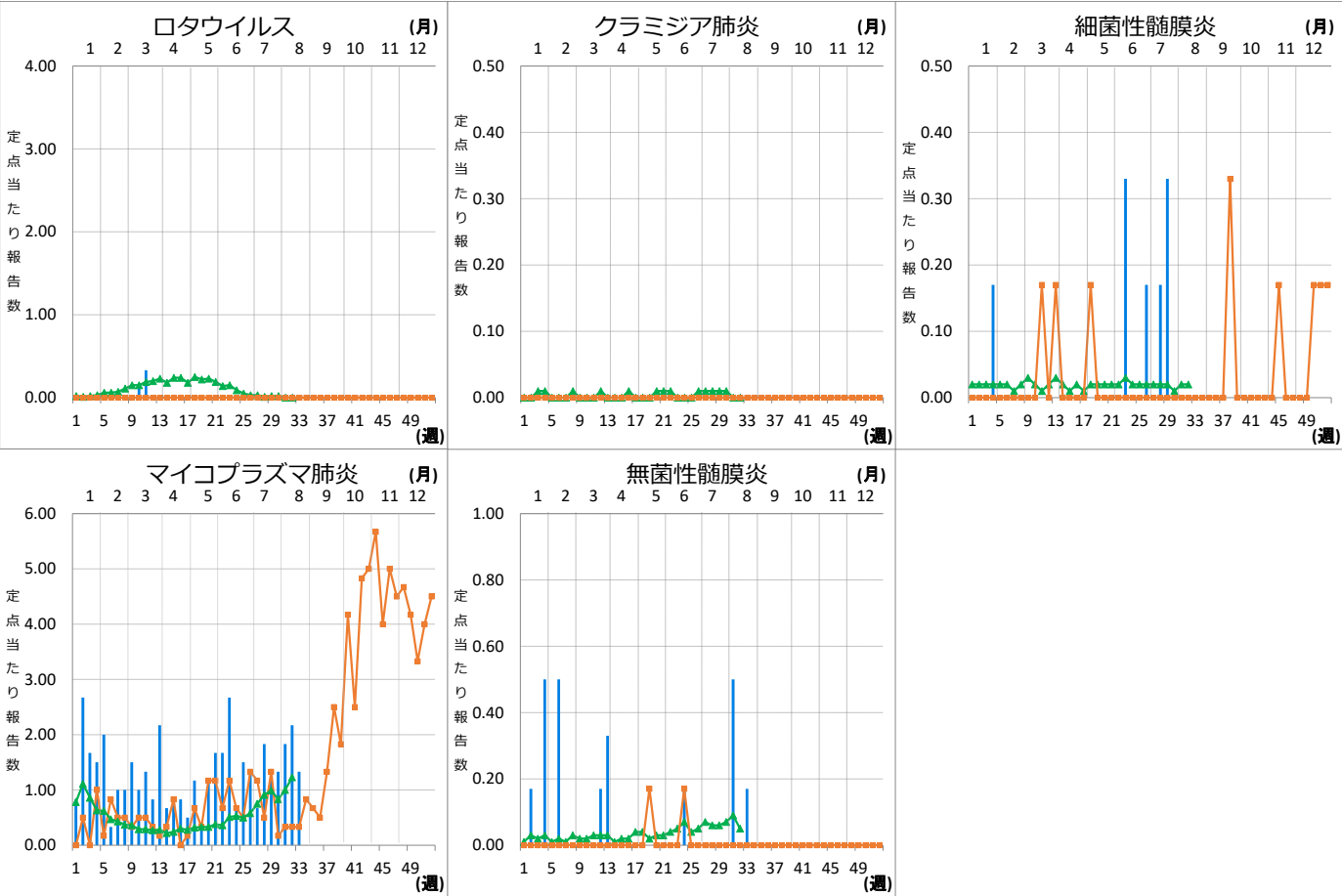
V 定点把握対象疾患週別推移（眼科定点）（2025 年第 33 週、ただし全国は前週）

グラフの説明👉**——は 2025 年青森県、■——■は 2024 年青森県、▲——▲は 2025 年全国**



VI 定点把握対象疾患週別推移（基幹定点）（2025 年第 33 週、ただし全国は前週）

グラフの説明👉**——は 2025 年青森県、■——■は 2024 年青森県、▲——▲は 2025 年全国**



Ⅶ 急性呼吸器感染症 (ARI) 病原体検出情報

(1) 急性呼吸器感染症病原体定点からの提出検体数及び結果判明分 (2025 年第 26～33 週)

急性呼吸器感染症	2025年							
	26週	27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週
提出検体数	9	10	7	8	9	6	6	12
インフルエンザウイルスA	0	0	0	0	0	0	0	
インフルエンザウイルスB	0	0	0	0	0	0	0	
SARS-CoV-2	0	0	0	0	0	0	0	
RSウイルスA	0	0	0	0	0	0	0	
RSウイルスB	0	0	0	1	0	0	0	
ヒトメタニューモウイルス	0	0	0	0	0	0	0	
パラインフルエンザウイルス1	0	0	0	0	0	0	0	
パラインフルエンザウイルス2	0	0	0	1	0	0	0	
パラインフルエンザウイルス3	0	1	0	0	1	0	1	
パラインフルエンザウイルス4	0	0	1	1	2	2	1	
ライノ/エンテロウイルス	2	4	4	3	1	2	3	
アデノウイルス	2	1	0	0	0	0	0	
不検出	6	5	3	3	5	2	1	
検査待ち	0	0	0	0	0	0	0	12

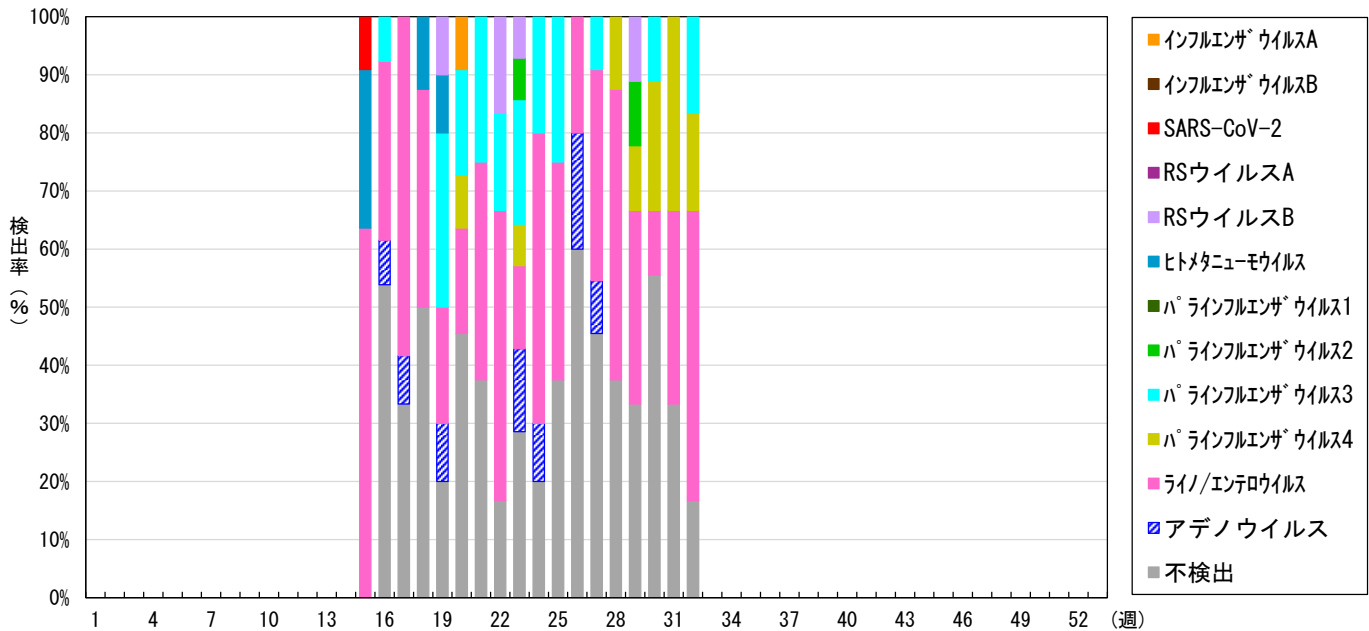
※第26週に提出された検体のうち、ライノ/エンテロウイルス及びアデノウイルスが重複して検出されたものが1検体ありました。

※第27週に提出された検体のうち、ライノ/エンテロウイルス及びアデノウイルスが重複して検出されたものが1検体ありました。

※第28週に提出された検体のうち、ヒトパラインフルエンザ4及びライノ/エンテロウイルスが重複して検出されたものが1検体ありました

※第29週に提出された検体のうち、RSウイルスB及びライノ/エンテロウイルスが重複して検出されたものが1検体ありました

(2) 検出された病原体の週別推移 (2025 年第 15 週～)



Ⅷ 全数把握対象疾患発生状況（第 33 週）

- ・腸管出血性大腸菌感染症（三類感染症）：中南 1 人（2025 年計： 23 人）
- ・百日咳（五類感染症）：青森市 1 人、中南 2 人、八戸市 4 人、西北 1 人、上北 2 人（2025 年計： 650 人）

Ⅸ 保健所管内別全数把握対象疾患発生状況（2025 年第 30 週～2025 年第 33 週）

週	東青 （東津軽保健所+ 青森市保健所）	中南 （中南保健所）	三八 （三戸保健所+ 八戸市保健所）	西北 （西北保健所）	上北 （上北保健所）	下北 （下北保健所）
30	結核1人 腸管出血性大腸菌感 染症2人 百日咳1人	結核1人 腸管出血性大腸菌感 染症1人 梅毒1人 百日咳11人	百日咳5人	百日咳2人	百日咳2人	
31		腸管出血性大腸菌感 染症2人 百日咳10人	百日咳8人		腸管出血性大腸菌感 染症1人 百日咳3人	腸管出血性大腸菌感 染症1人
32	百日咳3人	梅毒1人 百日咳11人	百日咳3人	百日咳1人	腸管出血性大腸菌感 染症3人 つつが虫病1人 百日咳2人	百日咳1人
33	百日咳1人	腸管出血性大腸菌感 染症1人 百日咳2人	百日咳4人	百日咳1人	百日咳2人	

X 全数把握対象疾患発生状況（全国-青森県）（注：発生状況は速報値であり、国内で届出のあった疾患のみを掲載しています）

全国（2025 年第 1 週～第 32 週までの累計）										
分類	二類	三類	三類	三類	三類	三類	四類	四類	四類	四類
疾病名	結核	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス	E型肝炎	A型肝炎	エキノкокクス症	エムボックス
累積報告数	8460	3	31	1913	17	4	374	82	22	3
分類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類
疾病名	オウム病	回帰熱	コクシジオイデス症	重症熱性血小板減少症候群	ダニ媒介脳炎	チクングニア熱	つつが虫病	デング熱	日本紅斑熱	ブルセラ症
累積報告数	8	5	5	135	2	13	100	88	331	1
分類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	五類	五類	五類	五類
疾病名	ボツリヌス症	マラリア	ライム病	類鼻疽	レジオネラ症	レプトスピラ症	アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	急性弛緩性麻痺
累積報告数	1	15	11	1	1357	6	283	147	802	20
分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	急性脳炎	クリプトスポリジウム症	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性髄膜炎菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘（入院例）
累積報告数	341	16	107	927	514	22	461	59	2487	421
分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類		
疾病名	梅毒	播種性クリプトコックス症	破傷風	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	百日咳	風しん	麻しん	薬剤耐性アシネトバクター感染症		
累積報告数	8518	101	52	58	64467	8	205	4		

青森県（2025 年第 1 週～第 33 週までの累計）

分類	二類	三類	四類	四類	四類	四類	五類	五類	五類	五類
疾病名	結核	腸管出血性大腸菌感染症	E型肝炎	つつが虫病	日本紅斑熱	レジオネラ症	アメーバ赤痢	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	急性脳炎	クロイツフェルト・ヤコブ病
累積報告数	66	23	1	14	1	6	1	6	1	3
分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類			
疾病名	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	梅毒	破傷風	百日咳			
累積報告数	5	1	3	14	16	1	650			

XI 病原体検出情報 ※（ ）内は、検査材料及び検体採取日報告はありませんでした。

Ⅻ 社会福祉施設等における感染性胃腸炎（疑い含む）の発生状況

「社会福祉施設等における感染症等発生時に係る報告について」（平成18年2月22日付け厚生労働省健康局長、医薬食品局長、雇用均等・児童家庭局長、社会・援護局長通知）に基づく、青森県内の社会福祉施設等における感染性胃腸炎（疑いを含む）の報告件数及び発症者数は次のとおりです。

2025 年第 33 週

報告週	施設種別	発症者数	管轄保健所
第33週	報告なし		

2025 年報告件数及び症者数

月(週)		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月				9月	10月	11月	12月	計
施設種別		1-5週	6-9週	10-13週	14-17週	18-22週	23-26週	27-31週	32週	33週	34週	35週	36-39週	40-44週	45-48週	49-52週	(施設別)
介護・老人福祉関係施設	件数	1	4	4	4	1	0	0	0	0							14
	発症者数	7	70	69	78	11	0	0	0	0							235
児童・婦人関係施設等	件数	4	10	8	7	1	3	1	1	0							35
	発症者数	74	228	136	128	25	50	22	13	0							676
障がい関係施設	件数	0	2	2	1	1	0	1	0	0							7
	発症者数	0	37	25	10	5	0	11	0	0							88
その他施設	件数	0	0	0	0	0	1	0	0	0							1
	発症者数	0	0	0	0	0	10	0	0	0							10
計(月別)	件数	5	16	14	12	3	4	2	1								57
	発症者数	81	335	230	216	41	60	33	13								1009

感染症の窓

腸管出血性大腸菌感染症は、ベロ毒素を産生する腸管出血性大腸菌を病原体とする感染症です。日本で検出される血清型は「O157」が最も多く、次いで「O26」と「O111」が多く検出されます。

一般的な症状は、腹痛、水様性下痢及び血便ですが、嘔吐や38℃台の高熱を伴うこともあります。さらに、ベロ毒素の作用により溶血性貧血や急性腎不全を来とし、溶血性尿毒症症候群を引き起こすことがありますので、小児や高齢者は、特に注意が必要です。

細菌による食中毒は一般に、気温が高い初夏から初秋にかけて多く発生します。青森県内における腸管出血性大腸菌感染症患者月別報告数にも同様の傾向がみられます(図)。

腸管出血性大腸菌感染症の主な感染経路は経口感染で、腸管出血性大腸菌に汚染された食べ物を食べることで感染するほか、患者の糞便に含まれる大腸菌が直接または間接的に口から入ることによっても感染します。

腸管出血性大腸菌を含む多くの食中毒菌は、中心部の温度が75℃で1分以上加熱することで死滅しますので、食品は十分に加熱し、調理後の食品はなるべく早く食べ切りましょう。また、二次感染予防として、食品は適切な衛生管理を行い、調理前だけでなく、排便後やおむつ交換後もせっけんと流水による手洗いや、手指消毒を徹底しましょう。

○詳しい情報はこちらをご覧ください。☞[腸管出血性大腸菌Q & A \(厚生労働省 HP\)](#)



腸管出血性大腸菌感染症

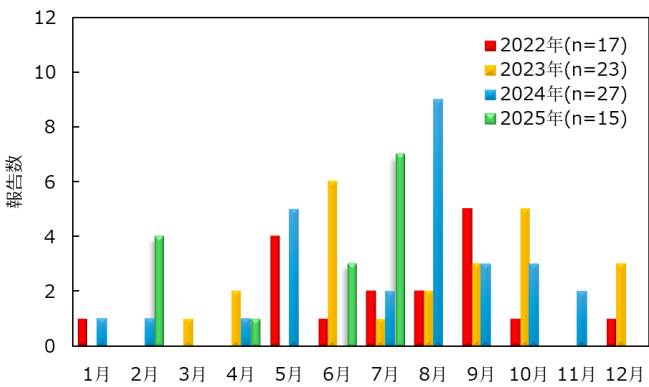


図 青森県における2022年以降の腸管出血性大腸菌感染症患者月別報告数